

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中区鹿谷 亀山 マンション新築	階数	地上5F
建設地	静岡県浜松市中区鹿谷78-2,119-3	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、法第22条地域、居住	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年4月21日
敷地面積	2,410 m ²	作成者	安井 孝浩
建築面積	488 m ²	確認日	
延床面積	2,031 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	これは、CASBEE静岡2016年版による評価です。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
内装材はF☆☆☆☆を使用し、シックハウス対策に配慮した。	・居室(LD、洋間)の天井高を2.4m確保した。 ・住戸部分の全方角の外壁のサッシは、十分な自然採光・自然換気ができるような面積をとった。 ・住戸内部のPSIに掃除口を設け、維持管理がしやすいよう	外皮は、シンプルな色彩とし、周囲の環境と調和するようにした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮性能の向上及び一次エネルギー消費量を抑えるよう努めた。	砕石、アスファルトは、再生材を使用した。	駐輪場・駐車場の台数の確保・導入路・配置等に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)中区鷹谷 亀山 マンション新築工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5				ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.2	/5				がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.0	/5				がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目				
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.1			
■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③居室窓にカーテンレールを設置し、上階のバルコニーを庇として扱う ④ビニル床シート及びビニルクロス貼の耐用年数は20年以上 ④塩化ビニル鋼管、塩化ビニル管(いずれもB)を使用	Q-1	2	2.1	2.1.2	① 外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	② 屋光利用設備	
				3.2	3.2.1	③ 屋光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数	
				2.2.2	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④ 主要設備機器の更新必要間隔		
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥空地率78%を確保し、風の通り道を確保できるようにした。	Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出	
		3	3.2		⑥ 敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級3の基準を満たしている。	LR-1	1			⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
		2			⑧ 自然エネルギー利用	
		3			⑨ 設備システムの高効率化	
		4	4.1		⑩ モニタリング	
			4.2		⑩ 運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬断熱材はODP=0,GWP=3の材料を使用した。	LR-2	1	1.1		⑪ 節水	
			1.2	1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
		2	2.1	2.1.1	⑫ 材料使用量の削減	
				2.1.2	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
				2.1.3	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.1.4	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.1.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
				2.1.6	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
		3	3.1		⑬ 有害物質を含まない材料の使用	
			3.2	3.2.1	⑬ 消火剤	
				3.2.2	⑬ 断熱材	
				3.2.3	⑬ 冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮風が回復しやすいよう、隣棟間隔指標Rw0.5以上を確保した。	LR-3	1			⑭ 地球温暖化への配慮	
		2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.2			
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰構造部材を痛めることなく、空調・給排水の配管並びに電気・通信の配線を更新・修繕ができるようにした。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性	
					2.1.2	⑯ 免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑰ 空調・換気設備
				2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰ 電気設備	
				2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	2.0			
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高は、居室の十分な天井高が確保できるような高さに設計した。	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
			3	3.1	3.1.1	⑲ 階高のゆとり
					3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) バルコニーを全住戸の南側に設置し吐き出し窓で内部空間と連続させる事で、十分な日当たりの下、快適に暮らせるように設計した。	Q-3	3	3.1		⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.5			
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ㉒外壁仕上げは、シンプルな色彩とし、周辺のまちなみと調和しやすくなるようにした。	Q-3	1			⑳ 生物環境の保全と創出	
			2			㉑ まちなみ景観への配慮
			3	3.2		㉒ 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善) ⑳建築物の配置計画上計画にあたって、風下地域への風の通り道を遮らないよう配慮した。	LR-3	2	2.2		⑳ 温熱環境悪化の改善	